

所属	心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程	修了年度	2021 年度
氏名	田中 佑奈	指導教員 (主査)	笹川 智子准教授

論文題目	音大生の進路選択と大学適応が就労満足に及ぼす影響
------	--------------------------

本文概要

【問題と目的】音楽大学（以下、音大とする）はキャリア選択という観点で、他の大学にはないいくつかの特徴を有している。一般に、音大に進学することは音楽の専門家への発達の一過程として考えられていることから（佐藤，2001），入学時点では既に相応の音楽的知識と技術を習得している必要がある。これらの事情から、音楽教育においては幼少時からのトレーニングと、周囲の人の長期にわたるサポートが欠かせないことが知られており、音大への進学理由は本人の主体的な希望以外の要因の影響を受けた、他律的で従属的なものになる可能性が考えられる。他律的で従属的な理由に基づく進学は、その後の大学適応を妨げ（佐藤，2001），大学適応感の低さはキャリア意識の低さにもつながることが報告されており（佐藤・米光，2018），それを裏付けるかのように音大生の卒後のキャリアにおいては、3～4 割の学生が音楽とは関係ない一般の就職していることが報告されている。一方で、大学入学時に希望していた就職ができないことは必ずしも職務不満足にはつながらず、充実した就職活動は、柔軟なキャリア形成と就職先への満足につながることも報告されている（稲田・田澤，2009）。そこで本研究では、音大生の大学進学理由と在学中の適応、および現在の職務満足という3つの変数の関連性について、現在音楽を生業とする人（以下、「音楽職群」と、一般の就職をした人（以下、「一般職群」）を比較する中で各段階の適応のあり方について検討することを目的とした。また、自らの学生生活やキャリア選択をどのように評価しているかについても明らかにするため、卒業したことに対する評価、および在学中にあったらよかったサポートについても探索的に検討した。

【方法】音楽大学の卒業生 153 名を対象に、無記名のアンケート調査を行なった。調査は、①フェイスシート、②音大への進学理由に関する尺度（佐藤，2001）、③音大における適応感（佐藤，2001）、④Questionnaire for measuring job satisfaction（木村，2011）、⑤自由記述項目：（1）音大を卒業したことによるメリット、（2）音大を卒業したことによるデメリット、（3）キャリア教育の視点から在学中にあったらよかった支援やサービスによって構成され、Google フォーム上にて回答を募った。

【結果と考察】多母集団同時分析の結果、音楽職群・一般職群に共通して、進学理由のうち「将来展望」は大学適応感との間に有意な正の関連を示したことから、自分の求める人生を歩む手段として進学することは、その後のキャリア選択如何に関わらず大学適応感を予測すると考えられた。一方で、大学適応感と職務満足感の間では、一般職群においてのみ有意な関連が示され、適切なキャリア教育がその後の適応を高める可能性が示唆された。他方、音楽職群では進学理由と職務満足感に有意な関連が示され、進学に対する動機付けが重要であることが示唆された。自由記述項目についてはカテゴリ化を行い、量的変数との関連性を検討するために2要因分散分析を行った。その結果、現在の職業を問わず在学中のキャリア支援のニーズは高く、その際に必要となるキャリア支援は、卒後に音楽を生業とするか否かにより異なることが示された。今後は音楽大学においても、多様な進路に合わせたキャリア支援を行っていくことが重要であることが示唆された。